

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	一般国道57号（中九州横断道路） 大津熊本道路（大津西～合志）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	熊本県菊池郡大津町杉水～熊本県合志市上庄			延長	4.7km
事業概要	中九州横断道路は、大分県大分市を起点として、豊後大野市、竹田市、阿蘇市、大津町、合志市、熊本市に至る地域高規格道路である。当該道路は、熊本県菊池郡大津町杉水～合志市上庄に至る延長約4.7kmの道路である。大津熊本道路のうち、合志～熊本（延長約9.1km）は、令和2年度に事業化している。				
事業の目的、必要性	本道路は、九州縦貫自動車道へのアクセス性向上による物流の効率化により、地域経済を牽引する製造業等の支援や、広域救急医療を支援する信頼性の高い高速ネットワークを形成する。また、安全で円滑な高速ネットワークの形成による観光地へのアクセス性の向上、それに伴う地域活性化・復興を支援するものである。				
全体事業費	約310億円	計画交通量	約14,600台/日		
事業概要図					

事業採択の前提条件	<ul style="list-style-type: none"> 費用対便益：便益が費用を上回っている。 手続きの完了：計画段階評価手続き完了（平成27年9月）、環境影響評価手続き完了（令和2年1月）、都市計画決定手続き完了（令和2年1月）
-----------	--

事業評価結果

費用対便益分析	B/C	1.2 (1.3)	総費用	4,575億円 (事業費: 4,135億円 維持管理費: 411億円 更新費: 29億円)	総便益	5,633億円 (走行時間短縮便益: 4,921億円 走行経費減少便益: 516億円 交通事故減少便益: 196億円)	基準年	令和3年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=1.4 (交通量 +10%)					
		事業費変動	B/C=1.2 (事業費変動 +10%)	B/C=1.3 (事業費変動 -10%)					
事業期間変動	B/C=1.2 (事業期間変動 +20%)	B/C=1.3 (事業期間変動 -20%)							
事業の影響	評価項目	評価	根拠						
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	・工業団地から最寄りのICまでの所要時間短縮により物流の効率化、産業活動を支援 〔菊池・大津地域の高速IC15分カバー圏の拡大〕 【現況】約12%→【整備後】約44%					
		事故対策	-	・注目すべき影響はない。					
		歩行空間	-	・注目すべき影響はない。					
	社会全体への影響	住民生活	◎	・搬送時間の短縮により患者負担を軽減し、阿蘇地域からの管外救急搬送を支援 〔消防署～第三次救急医療機関の所要時間〕 【現況】68分→【整備後】60分（8分短縮）					
		地域経済	◎	・来訪者の移動時間の短縮により観光地間の周遊性が向上し、地域観光の活性化に寄与 〔熊本駅～阿蘇地域の所要時間〕 【現況】93分→【整備後】69分（24分短縮）					
		災害	-	・注目すべき影響はない。					
環境		-	・注目すべき影響はない。						
地域社会	-	・注目すべき影響はない。							
事業実施環境	○	<ul style="list-style-type: none"> 計画段階評価手続き完了（平成27年9月）、環境影響評価手続き完了（令和2年1月）、都市計画決定手続き完了（令和2年1月） 熊本県知事より大津町～熊本市間の早期事業化の要望を受けている。 							

関係する地方公共団体等の意見

【熊本県知事】
新規事業採択時評価に係る「一般国道57号（中九州横断道路）大津熊本道路（大津西～合志）」事業の予算化について、同意しますとともに、感謝申し上げます。
中九州横断道路は、熊本・大分両県の県庁所在地を結ぶ路線であり、九州の横軸として、熊本県のみならず九州全体の産業や地域の活性化、観光振興に資するとともに、地域間の物流効率化や大規模災害時における代替路機能を担う重要な路線です。
加えて、沿線では世界的半導体企業であるTSMC社とソニー、デンソーによる新工場建設が発表されたところであり、今後、産業の脳と言われる半導体関連産業の集積により、シリコンアイランド九州の復活につなげ、本県が日本の「経済の安全保障」の一翼を担うためにも、中九州横断道路の重要性は益々高まっています。
本県といたしましては、事業が円滑に推進されるよう、埋蔵文化財調査の体制確保や工事実施に伴う土砂の確保等に関する事業間調整、大津西IC（仮称）へのアクセス道路である国道325号の道路整備等について最大限協力いたします。また、付け替え道路（横断ボックス、跨道橋）の集約や用地買収等について、沿線自治体と連携しながら地元調整を行って参ります。
また、当該区間の事業実施にあたっては、早期整備の観点から、事業中の大津熊本道路（合志～熊本）や九州縦貫自動車道と熊本西環状道路とを結ぶ区間を含めた、有料道路制度の活用も有効な手段の一つと考えております。つきましては、国において、是非、ご検討いただきますとともに、県としましても、沿線自治体と連携して、県民の理解が深まるよう努めて参ります。
つきましては、「一般国道57号（中九州横断道路）大津熊本道路（大津西～合志）」の令和4年度新規事業としての予算化とともに、中九州横断道路の全線整備に向けて切れ目なく事業が推進されるよう、既に計画段階評価が完了している「大津～大津西間」の早期事業化につきましても、特段のご配慮をお願いします。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化は妥当である。

採択の理由

費用便益比が1.2（1.3）と便益が費用を上回っており、また、計画段階評価、環境影響評価、都市計画決定の手続きを完了しており、事業採択の前提条件が確認できる。
大津熊本道路（大津西～合志）の開通により、九州縦貫自動車道へのアクセス性が向上、物流の効率化による地域経済を牽引する製造業等の支援や、広域救急医療を支援する信頼性の高い高速ネットワークが形成される。
また、安全で円滑な高速ネットワークの形成による観光地へのアクセス性の向上、それに伴う地域活性化・復興を支援するなど、事業の必要性・効果は高いものと判断される。
以上により、本事業は令和4年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※B/Cの上段の値は大分市～熊本市を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性	
<p>本道路は、九州縦貫自動車道へのアクセス性向上による物流の効率化により、地域経済を牽引する製造業等の支援や、広域救急医療を支援する信頼性の高い高速ネットワークを形成する。また、安全で円滑な高速ネットワークの形成による観光地へのアクセス性の向上、それに伴う地域活性化・復興を支援するものである。</p>	
評価項目	地域の課題
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・菊池・大津地域は、世界有数の半導体メーカーや国内有数の二輪工場の他、それら関連企業が多く集積。 ・製造品出荷額が県内第1位の地域であるが、最寄りのICや熊本港など物流拠点までの輸送ルートは混雑が著しく、また工業地域はICから15分圏域外に多く立地し、部品調達や製造品の搬出入に時間を要するなど速達性・定時性に課題
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇地域には第三次救急医療施設がなく、高次医療を必要とする患者は管外（熊本市）の医療施設に依存、また管外搬送比率は増加傾向。 ・阿蘇地域から熊本赤十字病院までの所要時間は約70分（全国平均の約2倍）を要するなど、患者への負担も多く、救急搬送時の速達性が課題。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・国道57号沿線には豊富な自然と観光資源が立地、特に、主要観光地が数多く点在する「阿蘇地域」への所要時間は熊本駅から90分以上を要し、熊本県が目指す『熊本都市圏から主要都市まで90分構想』は未達成、また移動時間に対して県外観光客の約3割が不満。 ・熊本市を訪れた観光客が足を延ばす観光地として「阿蘇地域」が最多、観光の周遊性を高めるためには、速達性の強化が課題
<p>※熊本県産業成長ビジョン(R2.12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通、通信、工業団地等の産業インフラは企業活動の基盤をなすものであり、今後予定されている中九州横断道路、南九州西回り自動車道や、検討が進められている空港アクセス鉄道の整備をはじめ、広域的に人やモノの移動を支える交通ネットワークの充実が求められる。 ・陸上・海上・航空の広域交通の更なる充実や工業団地の着実な整備など、企業が活動しやすい環境づくりを推進する。 <p>※熊本県国土強靱化地域計画(R2.3一部改訂)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害時、道路の寸断や渋滞の発生により医療活動の支援が停滞するおそれがあるため、本県と九州各県を結ぶ幹線道路ネットワークの充実・強化、県内各地を結ぶ道路網の確保が必要である。 ・九州の縦軸・横軸の多重性(リダンダンシー)確保と、循環型高速ネットワークのミッシングリンク(高規格道路網等において未整備により途中で途切れている区間)解消を図るため、中九州横断道路、九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路(Ⅱ期)、熊本天草幹線道路等の幹線道路ネットワークの整備を進める。 <p>※ようこそくまもと観光立県推進計画(2021年度～2023年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車による移動について、阿蘇へのアクセスルートの復旧・開通をはじめ、幹線道路の整備が進んでおり、県内各地へのアクセスが向上しています。 ・高まる集客力、情報発信力を活用し、ゲートから目的地までの移動の利便性を確保しながら、熊本のさまざまな魅力を楽しんでいただけるよう、周遊型商品の開発等を推進します。 <p>＜具体的な取り組み：幹線道路ネットワークの整備＞ 九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、中九州横断道路、熊本天草幹線道路、有明海沿岸道路</p>	

事業の有効性

- ・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価はCランクのままであるものの、脆弱度が0.77から0.69に改善するとともに、災害時の防災機能が強化される。
- ・また、九州縦貫自動車道へのアクセス性向上による物流の効率化により、地域経済を牽引する製造業等の支援や、広域救急医療を支援する信頼性の高い高速ネットワークが形成され、安全で円滑な高速ネットワークの形成による観光地へのアクセス性の向上、それに伴う地域活性化・復興を支援するなど、有効性の高い事業と評価する。

道路ネットワークの防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度(防災機能ランク)		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	高遊原分屯地	波野	27 〔1〕	0.77 (C) 〔0.00〕 (A)	0.69 (C) 〔0.00〕 (A)	▲331.53 〔0.00〕	0.15 〔0.00〕	0.13 〔0.05〕	○

事業の効率性

- ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了(H27.9)、環境影響評価手続き完了(R2.1)都市計画手続き完了(R2.1)

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は大分市～熊本市を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果